

こどもの手でつむぐ京都の錦織 - 未来へ伝える伝統の絆

1 目的・概要

私たちは、「こどもの手でつむぐ京都の錦織 - 未来へ伝える伝統の絆」というテーマで活動しました。

まず、春学期のはじめに、錦織について知るために工房取材を行いました。工房取材を通して、制作過程や京都の伝統織物産業が抱える課題を学びました。1つの工程も途切れてはいけな分業と簡単には習得できない素晴らしい職人技から、錦織の伝統を継承していくことの重要さを認識しました。また、後継者不足、織物業界の衰退、需要縮小という問題から、若者の伝統文化への敬遠や興味関心の薄れが課題であると考えました。

そこで、伝統織物に対する興味関心を高め、伝統織物の現状を伝えることを本プロジェクトの目的としました。この目的を達成するために、まずは未来を担う世代に伝統織物に興味をもってもらい、伝統織物の現状を伝えることを目標として、こどもたちに織物を知ってもらう機会を設けました。春学期は、自分たちが織物の知識を蓄えつつ、小規模なイベントを行い、秋学期は、大規模なイベントとしてクローバー祭へ出展し、多くのこどもたちに体験してもらう機会を作りました。

春学期には、6月22日に機織り体験会を行いました。対象は、小学生とその保護者で、イベント当日は、スライドを使用してクイズを出題しながら織物についての説明を行い、その後機織り体験を行いました。簡単なクイズや機織り体験で自分でも織物を織れることを知ってもらい、楽しさを感じてもらうこと、道具や糸に実際に触れることで興味関心をより高めることを目的としました。

秋学期には、11月2日、3日にクローバー祭で「織物体験ブース - 京都の伝統織物ってなんだろう？」というタイトルで機織り体験を含む織物に触れるイベントを行いました。6月のイベントでは元々錦織に興味を持っている人が多かったため、クローバー祭では、元々錦織に興味や知識がない人にも錦織について知ってもらうことを目的としました。教室に展示した錦織ができるまでの工程とそれに関するクイズのポスターを見て回っていただいたり、錦織作品や織物道具、絹糸、金糸、金箔などを実際に手に取っていただいた後に、機織り体験や織物の糸くずを使用した缶バッジとイヤークフ作りを体験していただきました。



Annual Schedule

2024年	4月	光峯錦織 工房見学		
	5月	白井柄箔匠 工房取材 長谷川杼製作所 工房取材 宏和染工所 工房取材 機織り体験会 準備		
2025年	6月	機織り体験会 開催		
	7月	春学期成果報告会の準備 春学期成果報告会		
	8月	白井柄箔匠の工房取材		
	9月	夏合宿		
	10月	光峯錦織工房見学	小西金糸工房取材 クローバー祭準備	
	11月	クローバー祭出展	秋学期成果報告会の準備	
	12月	西陣工房工房取材	秋学期成果報告会の準備	
	2025年	1月	秋学期成果報告会	まとめ



2 成果達成度

6月22日の機織り体験会では、小学生17人、保護者16人、計33人の方に参加していただきました。本イベントの成果達成度を測るために、アンケート調査を行いました。「今日は楽しかったですか」という質問の結果は、全員「楽しかった」の回答でした。そのため、今回のイベントの目的である、「織物を織る楽しさ」や「興味関心を高める」ことにつながったと考えられます(図1)。一方で、「説明は分かりやすかったですか」という質問では、回答の結果が分散していました。学年別で分かりやすさの平均値を算出したところ、7点満点中、1年生以外は7点に近い点数である一方で、1年生は4点と低いことが分かりました。そのため、小学校に入学してまだ3か月しか経っていない1年生にとっては理解しにくかったといえます。

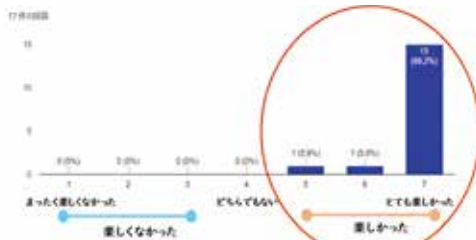


図1 6月22日アンケート

2)。6月のイベントでは、1年の内容理解度が低く、個人それぞれの理解度を考慮できていなかったことが反省点として挙げられました。この反省点を生かして、クローバー祭では低学年用のポスターと高学年以上用のポスターを作り、低学年でも理解できるように工夫しました。アンケートの結果、高学年が5.79点と低学年5.00点の理解度の差を小さくすることができました。また、クローバー祭では色糸（絹糸）でイヤークラフや缶バッジの日常使いできるものを作る体験を追加しました。織

11月2日、3日のクローバー祭では、機織り体験や小物づくりの対象を高校生までの子どもとしていましたが、大学生以上の方にも体験してもらい、二日間で約200人の方に教室に来ていただきました。アンケートの結果、「今日のイベントの前に、錦織のことを知っていましたか。」は7点満点中、平均点が2.65点と低い結果でしたが、「錦織について知ることができましたか。」という質問では5.95点と高く、本イベントの目的であった「元々錦織に興味や知識がない人にも錦織について知ってもらう」は達成することができました(図

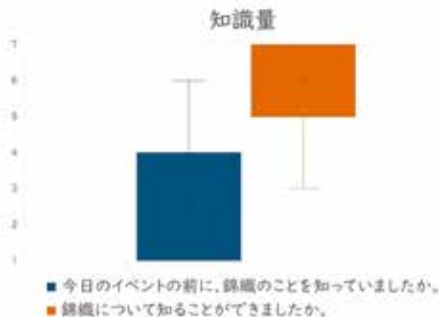


図2 クローバー祭アンケート

物ができるまでの工程とそれに関するクイズを記載したポスターに、織物やフェルト、デニムなどを張り付けて触ってもらったり、ポスターの前に展示した作品を見てもらったりすることで、それぞれのペースで楽しんでいただくことができました。また、教室入場時の受付でクイズの答えを書き込む用紙をお渡ししました。ポスターのクイズを見ながら答えを用紙に書き込んでもらい、それを持ち帰って見返してもらうことを狙いとしていました。

3 プロジェクトを通じて

本プロジェクトを通して、私たち自身が元々錦織のことを知らなかった状態から工房に実際に取材に行かせていただき、知識を付けて子どもたちに錦織について伝えることを達成しました。特に、工房取材に行かせていただき、分業制についてや高度で繊細な制作の過程を職人さんから直接学ぶことが出来ました。6月のイベントでは自分たちが学んだことを小学生の立場になって伝えることに苦労しましたが、反省を生かしてクローバー祭でのイベントでは低学年～高校生まですべての年代が楽しめるように工夫を行い、イベントを成功させることが出来ました。



編集後記

この一年間で、私たちは錦織について知識のない状態から、龍村先生や工房取材での職人さん方のお話を通して、たくさんのことを学ぶことができました。春学期は4人という少ないメンバーで始めましたが、秋学期にはさらに2人に減り、プロジェクトを進めていけるのか不安でした。そんな中、先生方が「これからは受講生2人だけでなく、先生とSAを含めた5人全員で進めていこう」と声をかけてくださり、その言葉に励まされ、最後まで続けることができました。

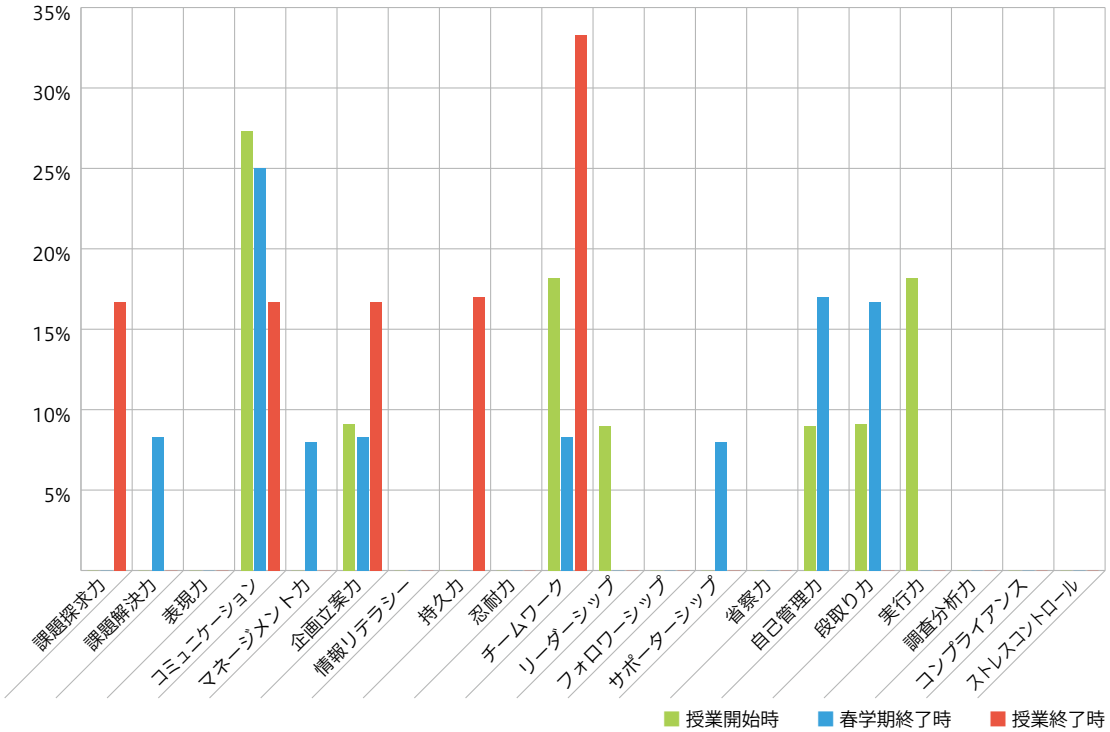
この場をお借りして、龍村先生、大久保先生、SAの安達さん、そしてご協力いただいた科目関係者の皆さま、取材先の方々など関わってくださった方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

プロジェクトメンバー

林 秀美(政策3) 吉井 美祐(文化情報4)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

Q1. チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んでください。



Q2. プロジェクト活動を通じて実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んでください。

